



ブック

本書は、親からの虐待や性被害などの心の傷を抱え、「JKお散歩」などの裏社会で働く少女の取材集である。児童相談所

や警察については、親に通報されて元の木阿弥になる経験をしているため敬遠しがちである。

「普通の少女」や「ルールに従順なタイプ」などの「扱いやすいタイプ」も登場する。客の性的欲望への対応が苦痛なのは、すべての少女に共通しているが、「わかってくれ

る大人がいない」という「関係性の貧困」の中で、このような仕事にもプライドを持つという。スカウトは、個人のタイプやニーズに合わせて、こまめに連絡をし、店につなぐ。店長は、少女の話聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女について



女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃 著

821円 光文社新書
☎03-5395-8289

は、過ごしやすいルールや客の喜ぶオブションを考えさせて、やりがいを持たせる。学習支援や貯金代行も行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。「お前の夢はなんだ」といふというワークシヨップも行なう。高校卒業後も、系列の風俗店で働けるよう面倒を見る。

評者は考える。

「みんなを」ではなく、「自分だけを」かまっただけしいという若者の関係性への渴望は、われわれもよく感じるところだ。教育では、これをそのまま受け入れるわけにはいかない。しかし、少女たちを取り巻く「裏社会」は、このような隙間をついて少女たちを取り込んでいく。これらの「居場所」に対抗して、自己を社会に位置付けることのできる自立のための「居場所」を提供する意義は大きい。それは、卒業後の生涯の充実をも視野に入れたものでなければならない。

(聖徳大学教授・西村美東士)